

二〇一〇こんぴらエンタメかわらばん

号外
第2号

2010年
10月11日(月・祝)

編集・発行
2010 こんぴらエンタメ
全国発信プロジェクト実行委員会
瓦版屋 遅筆堂点々
※すべて入場料は無料です

十月十一日(月・祝)
入場無料

金刀比羅宮例大祭奉祝奉賛行事

浪曲師 春野 恵子

テレビ「電波少年的東大直線」に、
お笑い芸人坂本幸之助の家庭教師として
出演していたケイコ先生が琴平町へ
やって来る。今回、浪曲師、春野恵子とし
て、浪曲「田宮坊太郎」を披露。三味線に合
わせて語る讃岐が舞合の物語、お楽しみに！
●十月十一日(月・祝)午後1時、於 神事場特設ステージ



十一月五日(金)

入場無料

第二回
こんぴらエンタメ落語会
天領榎井 お寺寄席

笑福亭 智之介

白鷺亭 栄笑
つる家 白爾

上方落語界のホープ、笑福亭智之介さん。満を持して琴平へ。今宵は、琴平で喋り倒しまっせー！笑福亭智之介さんの名前はちよつと・・・という方も、人気テレビ番組(爆笑レッドカーペット)に出演した唯一の落語家、満点大笑いといければ、思ひ出す方も多いのでは。そんな笑福亭智之介さんが、お寺での高座にあがります。
また、大学時代の落語研究会で笑福亭智之介さんの先輩だった白鷺亭栄笑さん、魅惑のアラフォー、独

持の雰囲気を持つ、つる家白爾さんといつたアマチュア落語家も出演。笑福亭智之介さんが二席、白鷺亭栄笑さんとする家白爾さんがそれぞれ一席ずつ披露。果たしてどんな寄席になるのやら。もうご期待！
●十一月五日(金)午後7時、於 興泉寺(榎井六条)



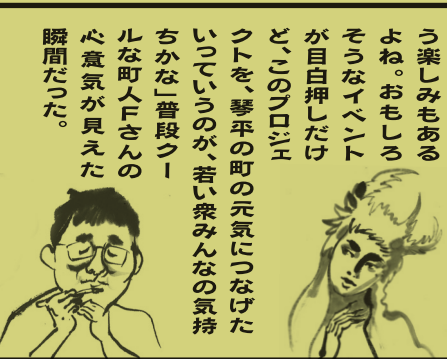
十月十六日(土)

こんぴらキネマ上映会

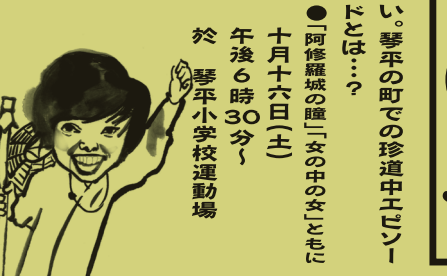
入場無料

阿修羅城の瞳

劇団☆新感線の大人気舞台を映画化。主演は市川染五郎と宮沢りえ、脇を固める俳優陣も渡部篤郎、樋口可南子、小日向文世など個性派揃い。かつて息を返していた男と、真実の恋に落ちるとは(阿修羅)になる女の悲しくせつないラブ・ストーリー。
町人Fさんは、「ぜひ、小学校運動場の野外持大スクリーンで、迫力ある映像を堪能してもらいたいなあ。それに、旧金毘羅大芝居でのロケもあったから、知っている場所が出て来るっていいね。おもしろそうないイベントが目白押しだ。このプロジェクトを、琴平の町の元気につなげていってほしいのが、若い衆みんなの気持ちかな」(普段クールな町人Fさんの心意気が見えた瞬間だった)。



東京神楽坂の料理屋の娘が主人公。主人公には姉、鯛子と鮎子、妹さよりがいる。そして、主人公の名前は、生駒ひらめ。すでにコメディイのにおいが・・・ひらめ以外の姉妹は揃って美人。ひらめだけが美人に程遠く、おまけに自由奔放、大酒飲みで、オネシヨの癖がいまだに直らない。そんなひらめがひよんなことから母親むつと一緒四国遍路の旅に出る。旅はもちろんな珍道中。研オコ演じるひらめのハチャメチャぶりから目が離せない。



にっぽん美女物語
おののの

今後の予定
◆十一月二十八日(日)
於 玄龍寺(榎井西中)
こんぴらキネマ上映会
「にっぽん美女物語」
女の中の女
◆十二月四日(土)
於 家郷農協ふれあいセンター
こんぴらキネマ上映会
「にっぽん美女物語」
女の中の女
◆十二月四日(土)
於 家郷農協ふれあいセンター
こんぴらキネマ上映会
「にっぽん美女物語」
女の中の女

こんぴら活弁士、
発表に向けて稽古中！

映画にまだ音声がなかった頃、映画の上映中、スクリーンの横に立ち、映画の内容を解説した活弁士。そんな活弁士をこんぴらエンタメ流に復活。現在、地元有識者が、無声映画の語りや、今更、実証した、歌舞伎絵看板の映像に合わせ解説する「ナイト・アート」に挑戦すべく、練習中。この冬のお披露目、ごうご期待！(写真は練習風景)「ナイト・アート」を鑑賞した地元若い衆の兄貴分、町人丁さん(通称「委員長」)は、「おもしろいなあ。歌舞伎の絵看板に描かれている



今日のヒトコマ



品質優秀 美味珍膳
ガーリッククetchup
◆濃口醤油
◆旨み味噌
◆ごまふりかけ
町人Nさん
肉料理はもちろんなこと、ぜひカツオのたたきに使ってほしい醤油。ご飯のおかわりがとまらない味噌。ちよい足して絶品のごまふりかけ。甲乙付け難し！
町人Uさん
どれも自信作。どっかの誰かさんは、あまりのおいしさにタイエツを中止していたなあ・・・って僕のことやけど。
こんぴら門前街うまいもん本舗
電話 0877-73-5525
FAX 0877-73-5527

隠居のつぶやき
今は昔、レトロな昭和の時代、こんぴらには、数多くの映画館や芝居小屋があったんじや。栄町の希望館(旧金座)、松竹、日本館、榎井旗岡の寿座、そして旧金毘羅大芝居(金丸座)も当時の小松町で無声映画などを上映していたのじや。小さな町に五箇所もの映画館。まさにこんぴらさんは映画天国だったんじや。ところが、高度成長期に入り、猛烈なテレビの普及とともに、映画産業は衰退。栄華を誇っていた(タジャレではないぞ)町内の映画館も全て廃館となつてしまった。そこで、二〇一〇こんぴらエンタメプロジェクトでは、一日限定ではあるが、様々な趣向を凝らし映画の町、こんぴらを復活させる。小学校運動場(特大大スクリーンでの上映会)、玄龍寺でのお寺キネマ、無声映画の活弁発表会。昔の映画館の記憶があるわしら世代からシネコン育ちの孫世代まで、世代を問わず映画の魅力を存分に楽しんでもらえたらと思うとるんじや。